

バイデン政権下の米国の対中東政策 —イスラエル情勢、イラン、中東の民主化

千葉大学法政経学部教授 酒井啓子

- * 中東政策における民主党と共和党の違い
- * オバマ政権からトランプ政権での変化
- * バイデン政権の中東政策
- * 今回のエルサレムでの衝突の経緯
- * 衝突の背景にある両者の国内事情
- * イスラエル・パレスチナ紛争の歴史
- * パレスチナ人社会におけるハマスとは
- * バイデン政権の対イラン政策
- * サウジなど湾岸地域の動静について
- * ロシアの中東関与はどうなるか



柴生田 それでは開会いたします。

本日は、千葉大学の酒井啓子さんにおいていただきました。中東においてもバイデン政権の誕生を受けてさまざまな新しい動きが出ておりますし、イランも大統領選挙を控えているいろいろな動きが出そうでございます。中東はわれわれのところからはちよつと遠い世界ではありますけれども、いろいろな意味で、石油を含めてわれわれの生活にもたいへん関係が深いというところで、毎年酒井先生には一度はおいでいただくということをお願いしてまいりました。

改めてご紹介の必要もないかもしれませんが、そういうことで、本日は最新の中東情勢について酒井先生からお話を伺います。

それでは先生、よろしく願いいたします。

中東政策における民主党と共和党の違い

酒井 ただいまご紹介にあずかりました、千葉大学の酒井でございます。ご紹介いただきましたように、毎年こちらでお話をさせていたいておりますけれども、昨年に続きオンラインのストリーミング配信ということで、このように2年も対面でお話ができないということは、なかなか皆様のお顔が拝見できなくて残念に思っております。

昨年は、まさにコロナの中で中東でもいろいろ苦労している現状をお話いたしました。今年については、最初の予定では、ちょうど今年が2011年のいわゆる「アラブの春」と呼ばれる民主化要求運動が中東諸国で起こってから